

テニス選手の勝利達成欲求についての研究

A study of tennis player's desire for higher standards winning

1K06A0032

指導教員 主査 正木 宏明先生

青山 修子

副査 作野 誠一先生

[序論]

スポーツとは本来、娯楽や気晴らしなど、「楽しみ」を目的として行われる。その中でも大きく分けて、レクリエーションとしてスポーツを行う方法と、競技としてスポーツを行う方法の2種類の楽しみ方があると言える。競技スポーツを行う選手にもレベルにより楽しみ方が異なる。しかし、どのレベルでも勝利に対して喜び、楽しむことは不変である。競技スポーツにおいては常に勝利することが目的となる。

[目的]

テニスにおける勝利に対する意識や心理的トラブル尺度を選手のレベル別に調査し、トッププロ選手になるために必要な心理的競技能力の傾向を見つけ出すことを目的とする。

[調査方法]

プロテニス選手から大学体育会に所属している学生までの女子テニス選手を対象とし、勝利に対する達成欲求、BIS/BAS 尺度、心理的トラブル尺度を実施した。

[結果及び考察]

BIS/BAS 尺度 BIS 尺度において、プロ選手の方がアマチュア選手よりも、ランキング上位10名の方が下位10名よりも、BIS 得点が有意に低い傾向が見られた。これは、プロ選手、上位選手の方が試合経験、勝利経験などが豊富であるため、不安をどの程度自分自身で処理できるかなどを認知できていて、不安状態の存在に反応

することが下位選手よりも小さいことを反映していると考えられる。

勝利達成欲求 勝利達成欲求について、トッププロ選手から体育会に所属している選手には差が出ないという結果が検出された。これは、試合経験があり、ある目標を持ってスポーツを継続的に練習している人には、勝ちたいという気持ちに差がなかったと推測できる。勝利意欲とは最後まで勝ちを諦めずにプレーし続けることでもあり、プロ選手アマチュア選手間、ランキング上位10名下位10名で有意差のあったやる気の低下に関係していると推測できる。

心理的トラブル尺度 プロ選手とアマチュア選手間で、やる気の低下においてプロ選手のほうが有意に低い得点を示した。この結果からプロ選手は、どんな状況でも自己のベストを発揮できるように努めていると考えられる。ランキング上位10名と下位10名では、上位10名の方がプレッシャーに対する弱さ、感情抑制能力のなさ、やる気の低下において有意に低い得点を示した。また、集中力のなさ、平常心の乱れにおいては、有意傾向が見られた。これらの結果により、トップ選手の方が競技中の心理的トラブルが少ないことがわかった。これらはより高いレベルでの試合経験によって培われてきた心理的能力の差が検出されたと考えられる。多くの強い選手と対戦することで、その状況に対応していき、不安を処理する方法を身につけてきたと考えられる。

[まとめ]

勝利達成欲求において、試合経験があり、ある目標を持ってスポーツを継続的に練習している人には、レベルに関係なく勝ちたいという気持ちが生じているということが推察された。テニスプロ選手の心理的特性として、ネガティブな気持ちがアマチュアの選手と比較して低く、神経質になりすぎないことが考えられた。また、心理的トラブルの不安要素は低いことがわかり、成功経験を積み、自己効力感を高め、自分自身に見合った目標を立てていくことがパフォーマンスを向上させると考えられる。プロ選手から、より高いレベルに挑戦していき、どのような状況でも今できる自己のベストを最後までやり抜こうとしている姿勢が伺えた。